

令和8年度 第3回長浜市病院再建・再編推進本部 要点録

■日 時 令和8年6月25日(木) 15時00分～15時38分

■場 所 市役所3階特別会議室

■出席者 浅見本部長、荻田副本部長、納谷本部員、内藤本部員、和田本部員、
山口本部員、村崎本部員、且本本部員、中島本部員

■代理出席者 小室副院長（高折副本部長欠席に伴い）

（説明者）湖北病院事務局管理課・山根課長

（事務局）健康福祉部・中川管理監、健康医療政策課・饗場副参事、下村主事

■内 容

1 本部長あいさつ

〔浅見本部長〕

- ・本日の病院再建・再編推進本部は「湖北病院及び湖北やすらぎの里の整備について」方針を報告させていただく。
- ・湖北病院及び湖北やすらぎの里の整備については、市北部の地域医療と地域包括ケアを将来にわたり守っていくため、これまで基本構想・基本計画に基づき検討を進めてきた。
- ・令和7年度には実施設計が完了したが、その過程で、過疎債償還額の計上漏れが判明し、当初見込んでいた資金計画では対応が困難となることが明らかとなった。さらに建設価格の高騰や病院事業の経営状況なども重なった結果、将来的に大きな資金不足が見込まれることとなり、施設整備の内容について、改めて検討する必要性が生じた。
- ・湖北病院は、湖北圏域、とりわけ長浜市北部地域の医療の拠点となるたいへん重要な施設である。それだけでなく、地域の誇りであり、安心の象徴、地域の皆さんの心の拠りどころである。
- ・そこで、将来世代に過度な負担を残さないことはもちろん大事にしつつ、同時に、市北部に必要な医療機能、地域の皆さんの心の拠りどころを必ず守るという強い思いを、湖北病院と共有し、なんとか整備の新たな方針を見出すべく、納谷院長はじめ、湖北病院の皆さんと何度も何度も協議を重ねてきた。
- ・本日の再建・再編本部では、湖北病院・病院事業と市当局間で合意した新たな整備の方向性について、報告させていただく。
- ・新たな整備の方向性では、湖北病院について「地域急性期機能」と「慢性期機能」を確保し、入院、救急、外来医療を引き続き担っていくこととしている。今後も引き続き、巡回診療や訪問診療等を実施することにより、へき地医療を確保する。また、病床については、既存の別館を活用し、一般病床48床、療養病床44床の計92床を確保する。
- ・救急室や手術室等の機能については、新築により必要な機能を整備する。さらに、湖北やすらぎの里については、地域包括ケアを支える介護機能として、入所60床、通所10名分を新築で確保する方向で、事業費としては70億から90億円程度を見込んでいる。事業費に幅があるのは、今後の建築費高騰や物価高騰などによる増加を想定しているため。
- ・今回の見直しは、市北部に必要な医療・介護機能を、将来にわたって現実的かつ持続可能な形で

守っていくための見直しである。引き続き、関係機関との協議や議会でのご審議を踏まえながら、市民の皆様に丁寧に説明し、地域で安心して暮らし続けられるよう、湖北病院及び湖北やすぎの里の整備を、しっかりと進める。

2 湖北病院及び湖北やすぎの里の整備について※納谷本部員 資料に基づき説明

〔荻田副本部長〕

- ・今回は市当局と病院事業・湖北病院との間で方向性が定まったため、公表させていただくもの。今後は様々なプロセスがあり、1つには10月の地域医療構想調整会議において、県・保健所・地域の医療機関など関係者の皆さんから新たな方針の理解を得ていく必要がある。さらに9月と来年3月には、予算について議会の皆様にご説明し、ご了承いただきながら進めていく必要がある。また全体として、どういう病院になっていくかを市民の皆さんに丁寧かつ具体的にお伝えしながら進める必要があると考えている。我々はもちろん、湖北病院の皆さんとも協力して進めていければと思っている。

→病院事業と市当局が一丸となって引き続き進めてまいりたいと思う。(事務局)

〔浅見本部長〕

- ・ここに至るには紆余曲折があり、本当に苦労したなと感じる。納谷院長は今日を迎えるにあたり、感慨深いものがあると思うので、お話しいただければと思う。
→まず、これまでの計画で「120床・個室」と説明してきたため、今回も個室でできないか検討した。しかし、そうすると改修でさらに病床数を減らさなければならず、その分費用がかかる上に収益性が落ちる。そういった点も全て検討した結果、現状のままの改修が最も収益性が高く、地域の皆さんにきちんと地域医療を提供できるという結論に達した。「人が集う病院にしたい」という点については、今回の計画には入れていないが、例えば患者さんやご家族が集えるオープンカフェをつくり、くつろいでお話しいただける場所を提供したいと考えている。やっそこまでこぎつけたということで、非常に感慨深いものがある。(納谷本部員)

〔内藤本部員〕

- ・この11月に起債に関する総務省協議があらうかと思うが、その中で償還計画等を提出されると思う。公立病院の経営強化プランも提出しなければならず、これらとの整合性をとっていただきたい。前回の計画のときも総務省と起債のやりとりをしていただき、当時は一定の評価をいただいていた基本的には内定という方向で進んでいたと聞いている。その後に赤字等が出てきているため、今回の申請が前回と同じような形で通るのか、経営に対する審査がより厳しくなる恐れがあるのではないかと、個人的に危惧している。十分、漏れのないようお願いしたい。
→前回は総務省から了承をいただいていたが、その後に過疎債の償還額の漏れがあった。今回は非常にシビアに査定されると思っている。重々気をつけ、しっかりやっていきたいと思う。
(納谷本部員)
→しっかり準備の方進めていただきたいと思う。(事務局)

〔山口本部員〕

- ・老健の定数や入所者数が減少することも見込まれる。地域医療や福祉環境を守る観点から、建設時には人口や利用希望者数をもう少し詳細に反映させる必要があると思う。十分に精査し、漏れないようお願いしたい。しっかりと進めていただきたい。
- 十分にサービスを提供できる状態を確保する必要がある。現在、当院の老健は84床で稼働率92%。精査すると、繰り返し入所されている方は約6割、およそ45人前後である。その他はショートステイの定期利用や特養入所までの待機の方等で、今回お示した60床程度という数字で、若干の変動はあるものの、定期的な利用は十分カバーできていると考えている。(山根課長)
- 市民の皆さんは、1つのサイクルの中にやすらぎの里もお考えいただきながらご利用されていると思っている。今後もその点を踏まえ、施設整備を考えていただきたい。(山口本部員)

〔和田本本部員〕

- ・予想以上に進展する人口減少にも対応して現在の規模を算出し、計画を取りまとめていただいていると承知している。一般病床48床、療養病床44床が地域の医療ニーズに対して十全なものであるという、その数字的な根拠について、もう少しご説明いただければより安心できる。
- 病棟は地域包括医療病棟（一般病棟）と療養病棟の2つに分かれている。病床数は、北部地域の方をカバーできるよう、市として算定した。昨年度の患者数は、一般病棟が54人強、療養病棟が53.3人。このうち一般病棟における伊香地区の患者割合は75%。現在計画している48床でカバーできる。療養病棟は伊香地区の患者割合が33.5%となっており、北部地域の入院を主として受けていくという形での湖北病院の位置付けとしては、現在の患者さんを受け入れられる数字となっている。2040年頃から入院患者の多くを占める高齢者が急激に落ちていくことも見込まれる。こうしたことから、元々の120床から現在の92床に抑えることで、適切な医療を確保・提供でき、かつ運営的にも最適だろうという方針を示した。(山根課長)
- 丁寧に確認いただいた上で、数字的な根拠も含めてしっかりと病床数を確保いただいていると認識した。2040年に向けた長期的なビジョンも含めて練り込んでいただいております。地域の皆さんにも安心していただけると承知した。今後、長期的にどうしていくかというところについては、我々政策部局も含めて一緒に議論を深めたい。引き続きよろしくお願いしたい。(和田本本部員)
- 北部のニーズを一般でも療養でもカバーしていくという話があり、今の利用実態からするとカバーできているとのことだった。今後は圏域全体でどういうふうに需要をカバーしていくのかという観点が重要である。湖北病院は北部をカバーできるサイズで建てるということだが、圏域全体のニーズをカバーするとすると、南側の市立長浜病院や日赤の中で、今は高度急性期をどうするかという議論が中心になっているけれども、回復期・慢性期のニーズも含めてどうカバーしていくかという議論を深めていく必要がある。まさにこの推進本部の課題であり、そこも合わせて考えていくということだと思う。(荻田副本部長)
- 第1回・第2回で市立長浜病院の今後の機能を議論してきた。本日、湖北病院の建て替えについて一定の方向性を示したが、それも踏まえて、第4回目以降の本部の中でしっかり議論を進めていきたい。(事務局)

〔山口本部員〕

- ・先ほど医療用MaaSの話が出たが、へき地医療や北部の医療を守る上で非常に重要なところかと思う。どのような見込みか、予定があれば伺いたい。
→現時点で予算化しているわけではない。元々は当院で滋賀医大との研究を兼ねて、医療用MaaSの導入について研究室から資金を得ようとしていた。最近さまざまな施設を見学する中で、キャンピングカーをビルドメーカーで製作することにより、医療用MaaSは比較的安価にできるということを岐阜県の事例で学んだ。そういったところをこれから検討していきたいと考えている。(納谷院長)

〔内藤本部員〕

- ・湖北病院の建設の話をしているが、これはあくまで病院事業の中の湖北病院という形である。湖北病院だけでなく、湖北病院と市立長浜病院が一体となった長浜市病院事業としての視点が大きいので、その点をしっかり含んでいただきたい。今回の見直しで、過大な設備投資ではなく、湖北の身の丈に合った施設を作っていただけるものと思う。過大な施設は後世に負担を残しかねず、せっかく建てても病院を手放すような事態になれば本末転倒である。再建はまだ道半ばなので、手綱をゆるめず進んでいただきたい。財政を預かる者として、さまざまな場面で相談を受けることになると思う。真摯に対応していきたいと思うので、よろしくお願いいたします。
→湖北病院と長浜病院は病院事業として一体である。今回は時間的に最優先の課題である湖北病院の建て替えを先に進めさせていただいた。これを元に、長浜全体の医療について検討してまいりたい。特に慢性期に関しては、今後、長浜赤十字病院やセフィロト病院との話し合いも必要になると思うので、そうした点も進めていきたい。(納谷本部員)

〔浅見本部長〕

- ・厳しい財政状況や人口減少、患者の減少という中で、北部に医療の拠点を置き続けるためにみんなで知恵を絞った現実的な整備案を、今日報告できて本当に安心している。納谷院長も先ほど感慨深いと言われたが、やっとここにたどり着いたという感じがする。特に、本当に建つのかと心配されていた北部の方々には、安心していただきたい。
- ・湖北病院、病院事業、そして市が協力してこの整備に全力で取り組み、市議会や関係機関、市民全体から祝福されるような湖北病院の建物になるよう、力を合わせていきたい。私も市長及び本部長として全力で取り組みたいので、皆さんよろしくお願いします。